吟友

第83号

令和5年5月1日

亀井神道流 西日本吟詠会総本部 広報部
題字：波多江啓峰

薩摩藩島津家別邸「名勝・仙巌園」（通称磯庭園）より桜島を望む

我が胸の燃ゆる思いに　くらぶれば
煙はうすし桜島山

この和歌は、皆様ご存じの筑前黒田藩勤皇の志士、平野國臣が詠んだ歌で愛吟家の間で広く膾炙されているものです。恐らく一度は、朗詠されるか、耳にされたことと拝察しています。

京都清水寺成就院の住職を務めていた僧・月照は、公家の近衛家と薩摩藩の仲介役として、西郷隆盛らと共に朝廷方面での運動に活躍しました。

安政五年（一八五八）八月から始まった井伊直弼による安政の大獄で追われる身となった月照を、西郷は薩摩で匿うことを計画しました。西郷は、薩摩入りの下工作をするために急遽先行して薩摩に戻りました。この時、月照を守り苦難の道を警護し無事、海路、薩摩入りを果たしたのが平野國臣でした。しかし、薩摩藩では厄介者である月照の保護を拒否し、「日向国送り」を命じます。

これは、薩摩藩との国境で殺害することだと知った西郷と月照は、絶望して死を覚悟します。西郷は、月照と國臣を引き連れ、日向に向けて錦江湾に舟を漕ぎ出します。船中では、これから待ち受ける苦難を慰めるかのように、國臣は笛を奏でていたそうです。船が沖合を過ぎた時、突然、西郷と月照は相抱き海に身を投げました。國臣は船頭らと必死の救助活動を行いました。西郷は、奇跡的に息を吹き返しましたが、月照は帰らぬ人となりました。

月照は「**大君の　為には何か　惜しからむ**
薩摩の瀬戸に　身は沈むとも」と、

西郷は「**二つなき　道にこの身を　捨て小舟**
波立たばとて　風吹かばとて」と、辞世の歌を残していました。

國臣は、薩摩藩の冷たい仕打ちに、怒りと悔しさ、そして悲しさと虚しさが胸中に込み上げて来たのでしょうか。噴煙を上げる雄大な桜島を前に、冒頭の和歌を詠んだと思われます。錦江湾に浮かぶ桜島は、今から一六五年前に國臣が詠んだ勇姿と変わらぬ噴煙を上げています。

初夏所感

亀井神道流 宗家
西日本吟詠会 会長　諫山 岳陽

新緑萌える爽やかな季節となりました。会員及び後援会会員の皆様におかれましては、益々ご壮健にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

ついこの前、新年のご挨拶を申し上げたと思ったら、アッという間に数ヶ月が過ぎ去ってしまいました。まるで「卯」の年、ウサギの駆け足のはやさを感じています。

今年は、桜の開花が最も早かったことがニュースになりましたが、季節の移り変わりが年々早まっているような気がしているのは、私だけでしょうか。

又、日本の出生率が年々低下し、昨年の新生児は80万人を切り、約77万人で史上最少と話題になりました。正に、少子高齢化の象徴的な出来事で、将来への不安を感じさせる状況です。最近の各種吟詠大会で、幼少年を始め若年層の減少が懸念されています。本会においても例外ではなく、改めて対策の強化を要する事態となっています。

さて、2月にスタートした本会会員の「吟春」もいよいよ闌です。6月の和歌朗詠が済むと、太宰府天満宮杯、ポリドール大会等の「吟夏」の季節を迎えます。「一回の舞台は、百回の練習に勝る」とも言われています。この言葉は、舞台に立つためには、それなりの練習と精進を重ねる必要に迫られます。そして、舞台上で平常心で実力を発揮するためには、一度でも多くの舞台を踏むことをお勧めする次第です。

私事ですが、昨夏に続き、過日、右膝の「神経鞘腫」と診断され、摘出手術を受けました。手術は成功し現在はすっかり完治しました。幸運なことに久留米大学病院の濱田先生というこの分野の名医に執刀して頂きました。

実は、ここ数年、病院の診察券の枚数の増加が示すように、「無病息災」ではなく、「六病息災」のため、病院通いが増えていました。

私にとって、幸運だったのは、有名な各担当医の先生との出会いがあったことです。いわゆる「神の手」とも呼ばれる名医の方々です。

先ず、腰痛の原因「脊椎炎」の手術はこの分野の専門医、済生会病院の安部先生、次に九州医療センターで勤務され、鹿子生整形外科副院長の小松先生、呼吸器科では、権威の九州中央病院副院長の古藤先生、そのほか著名な九州医療センターの寺田先生や、山王病院の蜜川先生等医学会でも名前の知られた先生方に恵まれました。

又、各病院の看護士、介護士、栄養士、理学療養士等医療体制を支えておられる多くの皆様の献身的なお世話になり感謝の気持ちでいっぱいです。

幸運に感謝しつつ、生かされた命を大切に、残された日々をお世話になった吟界のために、微力ながらご恩返しが出来ればと思っています。

過日、毎日新聞の広告で見つけた「聞いて味わう人生の名言」CD集を買い求めました。きっかけは、目に留まった坂本竜馬の次の和歌でした。

**「丸くとも ひとかどあれや 人心（ひとごころ）
あまりまろきは ころびやすきぞ」**

なかなか含蓄のある和歌で、歴史上著名な人物の名言も聞いてみたいとの思いに駆られた次第です。

案の定、心に響き、そして心安らぐ150名の人々の名言集でした。ここでは、皆様もご存じの人物の中から、いくつかの言葉をご紹介いたします。

NHK大河ドラマ「どうした家康」は、面白いとの評判も聞かれますが、晩年の家康像や「東照公御遺訓」とのイメージの違いも指摘されています。

吟詠愛好家の間で知られているのは、本会テキストにも採用されている

**「怠（おこた）らず 行（ゆ）かば千里の 果ても見ん
牛の歩みの よし遅くとも」**

といったところでしょうか。

そのほか、150名の中には、やはり織田信長、豊臣秀吉、上杉謙信、武田信玄、伊達政宗らの残した言葉が選ばれています。皆様よくご存じのものもあり省略しますが戦国武将の中で二人、毛利元就の辞世の歌ともいうべき和歌二首をご紹介します。

元就と言えば、「三矢の教え」が有名ですが、彼は、尼子氏を始め周囲の豪族が内紛で次々と勢いを失っていった様子を見て、「我が家は同じ轍を踏んではいけない」という意識が強かったのでしょう。死期を悟った元就は、死の三ヶ月前に知人を招いて催した花見の席で和歌を詠みましたが、この歌が辞世の歌として知られています。

**「友を得（え）て なおぞ嬉しき 桜花
昨日にかわる 今日の色香（いろか）は」**

小豪族から中国の覇者となる過程で、謀略と裏切りで容赦なく敵を陥れてきた元就には、真の友人と呼べる者は、少なかったと思われます。この和歌には、人生の最後に当たり心を許せる友を得た喜びが込められているようです。

多くの名言の中で、今の私にとって、なるほどと納得した言葉があります。それは、地球物理学者として知られた寺田虎彦の言葉で**「健康な人には、病気になる心配があるが、病人には快復するという楽しみがある。」**というものです。幼少より晩年まで、色々な病気に苛まれた中で悟った人生の名言の一つと言えましょう。

季節は、初夏から梅雨へ、そして本格的な夏へと移って行きます。健康な方も、病気の方も、呉れ呉れも御身大切にお過ごし下さい。

日本吟詠総連盟の新理事長に西山 啓峰先生がご就任

西山 啓峰 先生

日本吟詠総連盟総本部では、新理事長を含む新執行部体制を決定し発表された。

前会長小林北鵬先生の後任には、永年副理事長を務められた、吟詠道啓峰流啓峰吟詠会宗家会長の西山啓峰先生の擁立が決定した。

西山啓峰先生は、福岡県吟詠剣詩舞連盟の理事長も兼務されていて、本会の周年大会では、必ずご臨席を賜っているので、ご存知のことと思います。

九州からの就任は、熊本の故梅田櫻山先生以来二人目で、福岡からは初めての理事長の誕生で、会員一同心から祝意を表します。

西山先生には、公私共にご愛用中のところ、無理にお願いしてご挨拶をお寄せ頂きました。誠に有難く、心から感謝申し上げます。

ご挨拶（敬称略）

西山　啓峰

昨年十月、日本吟詠総連盟（以下日総連と称す）正副理事長会議におきまして推挙され、今年五月総会にて、第十一代理事長に就任予定の西山啓峰でございます。

日総連につきまして、少しご紹介したいと思います。

昭和二十七年四月、東京に於いて全国の吟詠愛好家を招集して「全国吟詠普及大会」が開催され、終了後五月一日をもって日本吟詠総連盟とし、全国組織として発足することが決定されました。

その時、九州からは、私の師匠でありました熊本の瓜生田山桜先生をはじめ、八河有楽斎先生、福岡からは、座親松翠先生、竹中大州先生が参加されたとお聞きしています。

昭和二十九年十月に、第一回の全国大会が開催され以後毎年、各地で開催されています。

現在では、北は北海道地区、南は九州地区と全国八地区に分かれて大会を担当しています。

コンクール大会も、昭和四十三年より毎年地区予選を通過した吟士が、全国決勝大会に出吟されています。

漢詩一部の優勝者には、文部科学大臣賞、漢詩二部の優勝者には、内閣総理大臣賞が授与されます。

日総連の連盟詩にある「流派を分たず　共に賛同」の文言の通り、全国の吟詠家の先生方と、仲良く吟を楽しみたいと思います。

私のモットーは、「明るく、楽しく、元気よく」です。

常に前を向いて、頑張って行きたいと思っています。

貴会からは、多くの方が加入されています。今後共宜しくご協力の程をお願い申し上げます。

西山啓峰先生の吟歴ご紹介

- 母、西山桜雲の影響で三歳より詩吟を始める。
- **小学二年生** 熊本香雲堂瓜生田山桜先生に師事。
- **昭和四十五年九月** 吟詠道啓峰流啓峰吟詠会を創立。
- **昭和四十七年六月** 西日本最優秀吟士権を獲得。
- **昭和四十七年九月** 日総連全国コンクール大会漢詩二部優勝。内閣総理大臣賞受賞。
- **昭和五十五年四月** 吟詠道啓峰流啓峰吟詠会宗家会長に就任。
- **昭和五十七年三月** 福岡県吟詠剣詩舞連盟創立。
- **平成十八年五月** 福岡県吟詠剣詩舞連盟理事長に就任。
- **平成二十五年六月** 日本吟詠総連盟副理事長に就任。
- **令和五年五月** 日本吟詠総連盟第十一代理事長に就任予定。

ご挨拶（敬称略）

日本吟詠総連盟
前理事長・顧問　小林　北鵬

小林　北鵬 先生

会員の皆様には、ご清祥にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

貴会の貴重な会報を永年に亘り、お届け頂き恐縮しています。内容豊富で何時も楽しみに精読致しておりました。ありがとうございました。

この度、日本吟詠総連盟の理事長職を新鋭に譲り、組織の革新、改革に繋げるべく退任することと致しました。在職中に賜りましたご厚情に感謝し、心から御礼を申し上げます。

今後は、後進の指導に専念し、楽しみ乍ら、静かに過ごしたいと考えております。

貴会の益々のご発展を心よりご祈念申し上げ、御礼のご挨拶とさせていただきます。

筑前勤皇党始末記

―黒田藩「乙丑の獄」―

「乙丑の獄」とは、幕末の一八六五年、慶応元年（乙丑年）に筑前福岡黒田藩で起こった佐幕派による勤皇派弾圧事件で、「乙丑の変」又は、「乙丑の政変」とも呼ばれた大事件である。

当時、福岡藩では第十一代藩主黒田長溥のもと、「尊皇佐幕」を掲げ、幕府を助けながら天皇を尊ぶ公武合体論に似た政治運動を進めていました。

長溥自身非常に開明的で、城下に鉄鋼炉を建設し、又、鉱山開発を進めるなど「蘭癖大名」と呼ばれるほどでした。

又、幕末の政治において「開国し政権が変わらなければ日本の未来はないが、幕府は潰さず、朝廷と合同しそのまま改革すべし」という保守的な立場から幕府を助け、強い影響力を持つに至ったのでした。

これに対し、家老加藤司書・藩士平野國臣・月形洗蔵・中村円太らを中心とする筑前勤皇党は「攘夷を進め、幕府を打倒し政権を天皇の下へ戻すべし」という尊皇攘夷論を唱え、藩主に対し決意を迫っていました。

加藤司書公画像

そればかりか、彼らは、上意を越え暴走を始め、福岡藩士の勤皇派は、土佐勤皇党、薩長の勤皇派と連携し、益々攘夷を進めます。藩主長溥は、勤皇、佐幕と心は揺れ動き、最終的に勤皇派に弾圧を加える「乙丑の獄」を招き、家老加藤司書を始め、斎藤五六郎、建部武彦、衣非茂記、尾崎惣左衛門、万代十兵衛、森　安平が切腹を命ぜられ、月形洗蔵を始め、海津幸一、鷹取養巴、森　勤作、江上栄之進、伊藤清兵衛、安田喜八郎、今中祐十郎、今中作兵衛、中村哲蔵、瀬口三兵衛、佐座謙三郎、大神壱岐守、伊丹信一郎、筑紫　衛ら十五名が斬首されました。筑紫　衛は、脱獄し、那珂川で水死したのを、改めて斬首するという凄惨さでした。そのほか野村望東尼、野村助作、尾崎逸蔵ら十六名が流刑に処せられ、総計百数十名が断罪され筑前勤皇党は壊滅しました。

月形洗蔵幽閉地跡

福岡藩は、維新前の僅か二年前のこの時、維新で活躍したであろう優れた人材を総なめに失ったのでした。維新後、新政府への足掛かりを失くしていた福岡藩は、徐々に苦しい立場に追い込まれて行くことになります。

断罪者の中に筑前勤皇党の中心人物であった平野國臣の名が見えないことについては、次号で述べたいと思います。

平野國臣銅像

筑前勤皇党首領格の加藤司書の家祖は、黒田如水が有岡城の戦いで、荒木村重に幽閉された際に世話をして、救出の手引きをした有岡城牢番の加藤重徳・吉成父子である。関ヶ原の戦い後、黒田長政に見いだされ加藤家は代々重臣となった。因みに、司書の義兄徳蔵の実家三奈木黒田家の祖黒田一成は、重徳の次男であり、吉成の実弟である。

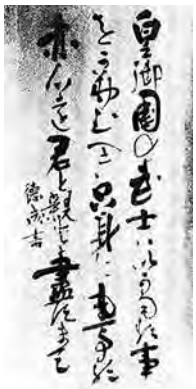
司書は、十一歳で加藤家十一代目二千八百石の家を継ぎ、福岡藩の中老の位列に加えられ、その後、藩の執政に就任し、功績が認められて慶応元年、家老に昇進する。

尊王攘夷派の中心人物となっていた司書は、西郷や高杉らと密談

し、薩長同盟の実現に向けて活動し、尊攘派の急先鋒とされ、筑前勤皇党の知名度も飛躍的に上がることとなった。

しかし、勤皇党の内紛もあり、佐幕派は藩主に讒言、司書は家老職を辞任したが、クーデター計画が注進され、長溥は勤皇党百四十名余りを逮捕、監禁、大粛清を断行したのでした。

司書が生前詠んだ次の筑前今様は、黒田藩士の精神的支柱として、瞬く間に藩士の間で愛唱されたと伝えられています。


司書公直筆「皇御国の」

「皇御国の」今様歌碑（西公園）

加藤司書屋敷跡

「皇御国の　武士は
いかなることをか　務べき
只身に持てる　赤心を
君と親とに　尽くすまで」

又、切腹に際し次の辞世の和歌を残しています。

「君がため　尽くす赤心　今よりは
尚いやまさる　武士の一念」

この辞世には、武士道の神髄が込められているように思えてなりません。

「君　君たらざるも　臣　臣たらざるべからず」たとえ君主が君主として至らなくとも、家臣は家臣の分を守り切らねばならない、家臣が至らないというのは許されないのが、武士道であった。そして、喜怒哀楽を顔色に表すことは、武士として男らしくないと、鍛えられた司書は、従容として死を受け入れたのでした。享年三十五歳。

勤皇の志が強く、志士たちを支え続け、自分も姫島流罪処分を受けた野村望東尼は、司書や親族の建部武彦、衣非茂記らが自刃したのちに、次の和歌を詠み、その死を惜しんでいます。

「もみじ葉も　散らぬ先こそ
惜しみつれ
心残さで　共に砕けむ」

野村望東尼画像

ここで、筑前勤皇党の主な人物のエピソードをご紹介しましょう。

皆様ご存じの新国劇「月形半平太」のモデルは土佐藩の「武市半平太」と言われていますが、実は、筑前勤皇党のリーダー格だった「月形洗蔵」と「武市半平太」の姓と名前を合体させたとも伝えられています。

武市半平太画像

月形洗蔵画像

両人とも、爽やかな美男子で、且つ勤皇の志士であったため、「月形半平太」誕生の立役者に選ばれたという説もあります。

芝居の舞台が、幕末であり、二人とも死を命ぜられ、非業の最後を迎えていて、ヒーローにはぴったりだったのでしょう。思わぬ出来事に、泉下の月形洗蔵は苦笑しているかも知れません。　享年三十七歳。

（次号へつづく）【諫山岳陽識】

吟界情報

西日本地区吟詠剣詩舞連盟
新会長に諫山岳陽氏を選任

西日本地区吟詠剣詩舞連盟では、令和四年八月十八日に逝去された前会長太田虹松先生の後任に、西日本吟詠会会長宗家の諫山岳陽氏を選任し、来る五月七日に開催される役員会総会で正式に承認され、新会長に就任する運びとなりました。

当連盟は、九州山口地区の三十五の吟詠会が加盟する連盟で、福岡本部、北九州本部、佐賀本部、山口本部の五本部と剣詩舞部門で構成する団体である。

主な活動は、吟詠コンクール「太宰府天満宮杯」の各本部予選並びに決選大会を始め、剣詩舞部門が実施する「八葉会」の後援活動等を行っています。特に、今年で三十回を数える「太宰府天満宮杯」は、同神社第三十九代西高辻信良宮司が名誉総裁を務められている歴史と伝統のある吟詠大会として、高く評価されています。

課題の詩歌の中には、文神菅原道真公の漢詩と和歌が、各一首必ず選ばれています。

太宰府天満宮杯の前には、四十二年前の昭和五十六年から開始されたフクニチ吟士権大会が、当連盟の主催で実施されていましたが、諸般の事情で終了した後を受けて、この大会が始められたという事情があります。

大会では、平成四年十月、第一回大会開催以来、各部門別に吟士権者、準吟士権者が選出され、名誉総裁名義の賞状が授与されています。本会からは、多くの吟士権者を輩出しています。当然のことながら、当連盟は、五十年前の設立以来半世紀に亘り、脈々と活動を継続して現在に至っています。

新会長には、少子高齢化やコロナ禍の影響を受ける中、運営と活動のかじ取りを任されるという大役に対し、大いに手腕を発揮して欲しいと期待されています。

吟界朗報

経正流吟道聖山会創立30年
名流吟詠剣詩舞道大会開催

経正流吟道聖山会会長の栗山聖山先生が主催された創立三十周年記念名流吟詠剣詩舞大会が去る四月十五日（土）神埼市千代田文化会館はんぎーホールに於いて吟界の錚々たる来賓が大勢参加して、盛大に開催された。

当日は、毎日新聞社をはじめ、RKB毎日放送、地元佐賀新聞社、サガテレビ、ユニバーサル邦楽吟詠会総本部が後援、ユニバーサルミュージック合同会社が協賛先として名を連ねた。

記念大会は、会員による合吟に続いて、栗山聖山会長の企画・構成による構成吟「西南の役」が披露された。

平野国臣の和歌「我が胸の」の朗詠で幕を開け、月照の辞世、西郷南洲の「僧月照十七回忌墓前の作」と続き、大日本正義流政武館宮崎義都副館長の剣舞による「西南の役陣中の作」や、長谷義英先生の「兵児の謡」で佳境に入った。

フィナーレは、西　道僊作「城山」の合吟をバックに大日本正義流政武館々長河津義政先生の剣舞で最高潮に達した。

又、無双直伝英信流の居合道演武も披露され、見事な演技に大きな拍手が贈られた。

会長吟詠では、栗山先生による歌謡吟「津軽じょんから流れ唄」が披露され、満場の人々に深い感銘を与えた。

来賓吟詠では、招待された諫山宗家が「祝詩」を朗々たる吟詠で披露した。

又、記念式典では、来賓の内川修治神埼市長、福田神埼市文化連盟会長、八谷克幸佐賀県議会議員に続いて、祝辞を述べ、創立三十周年大会の盛会を祝うと共に今後、益々の発展と栗山先生の更なるご活躍を祈念した。

記念撮影後のアトラクションでは、佐賀県警察音楽隊の特別演奏が演奏された。

大会終了後は、会場を「割烹はちや」に移しての「祝賀会」が催され、懇親と旧交を温め合った。

佐賀県警音楽隊の演奏

長谷義英先生の勇姿

河津義政先生の範舞

祝辞中の諫山宗家

栗山会長の歌謡吟詠

毎日吟士権大会開催

合吟五人の部で吟士権獲得!!
三人の部も吟士権

毎日新聞社主催第四十五回毎日吟士権大会福岡予選大会が、去る三月二十五日（土）・二十六日（日）の二日間、太宰府市の「プラム・カルコア太宰府」で開催された。

開会の言葉を述べる山中鈴鶯先生

第一日目は、野村聡陽先生の総合司会のもと、大会常務委員の山中鈴鶯先生の開会の言葉で幕を明け、諫山岳陽常任審査員が競吟上の注意を述べ早速、幼少年の部・中高生の部・和歌の部・一般の一部・一般の二部・一般の三部の予選と、合吟コンクールが開始された。

合吟五人の部では、本会の中島慶子・香月美穂・倉内恵子・稲毛幸栄・白石美恵子さんチームが一糸乱れぬ堂々とした吟詠を発表し、見事、栄誉ある吟士権を獲得した。又、三人の部でも、池田智恵子・池田莉菜・池田彩花さんチームが吟士権を獲得したのをはじめ、第三位に松嶋紀代子さんチームが入賞、他にも上位入賞を果たした。

当日行われたその他の独吟部門では、幼少年の部で池田夏音さんが入賞、一般の一部では池田彩花さんが入賞、一般の三部では森田睦子さんら六名が入賞を果し、和歌の部では、舩木久美子さんら十三名が入賞し、五月十四日の本選大会への出場権を獲得した。

閉会行事では、諫山岳陽常任審査員が、講評を述べた。

講評の中で「常任審査員の山中梅鈴先生がいつも話されるよう、一に吟声、二に節調、三に音程を鍛え、基本に忠実な吟詠を心がけていただきたい」と述べた。

講評中の諫山常任審査員

表彰式では、各部門の上位入賞者に賞状と楯が贈られた。閉会の言葉は宮西宏岳先生が述べ初日を終えた。

二日目でも多数入賞!!

翌三月二十六日（日）には高齢者の一部・高齢者の二部・高齢者の三部が実施された。

総合司会は坂口鶯壽先生が務め、開会の言葉を初日に続き、日本吟声流宗家の山中鈴鶯先生が行い、競吟上の注意を諫山岳陽常任審査員が行った。

二日目講評中の山中常任審査員

総出吟者二五一名の熱吟終了後の閉会行事では、恒例の講評を山中梅鈴先生がユーモアたっぷりに行った。

審査発表は、城井副部長が行い、富永岳誠審査員の閉会の言葉で無事終了した。

表彰中の城井大会委員長

閉会の言葉の冨永岳誠先生

◆当日の入賞者は次の通り。

●合吟＝三人の部

◎吟士権＝池田智恵子・池田莉菜・池田彩花

◎第三位＝松嶋紀代子・久保山孝子・平山エミ子

三人の部三位入賞の平山、久保山、松嶋各宗師範

◎第七位＝吉弘勝幸・楢崎忠吾・森　和教

○奨励賞＝倉内恵子・稲毛幸栄・白石美恵子

○奨励賞＝武内チズヨ・大神澄代・大田好子

○奨励賞＝古賀誠一・前田和宏・山口和洋

●合吟＝五人の部

◎吟士権＝中島慶子・香月美穂・倉内恵子・稲毛幸栄・白石美恵子

五人の部吟士権の吟友会チーム

◎準吟士権＝池田智恵子・松岡幸子・池田莉菜・池田彩花・池田祐子

五人の部準吟士権の太宰府慧陽会チーム

◎第三位＝林谷典子・梶原玲子・柴田美津子・郷原菊代・野田みち子

五人の部三位入賞の
岩戸扇陽会チーム

◎第四位＝近藤晴子・田中了子・杉谷玲子・安永奈智子・中垣千佐子
◎第五位＝矢野恵美子・古賀和子・萱嶋紀代・舩越恵美子・平嶋和子
○奨励賞＝古賀誠一・吉弘勝幸・前田和宏・柴田廣隆・山口和洋

●幼少年の部
◎入　賞＝池田夏音（太宰府慧陽会）

●一般の一部
◎入　賞＝池田彩花（太宰府慧陽会）

●一般の三部
◎入　賞＝中島慶子・森田睦子・香月美穂・杉谷玲子・小野律子・中内千鶴
○奨励賞＝倉内恵子・沖さち子（太宰府紘陽会）

●和歌の部
◎入　賞＝松嶋紀代子・平山エミ子・舩木久美子・中島慶子・楢崎忠吾・森田睦子・池田智恵子・柴田廣隆・惠内隆・柴田美津子・森本賢策・松岡幸子・中内千鶴
○奨励賞＝河原田和子・吉弘勝幸・田中了子・橋口満智代・森和教・林谷典子・廣橋英子・山口和洋・郷原菊代（岩戸征陽会）・小野律子（太宰府啓陽会）・蒲池勝洋（太宰府星陽会）

●高齢者の一部
◎入　賞＝久保山孝子・梁池美和子・山口和洋・石橋忠夫
○奨励賞＝河原田和子・田中了子・柴田廣隆・稲毛幸栄・福山博（香椎晴陽会）・藤田敏幸（太宰府正陽会）

●高齢者の二部
◎入　賞＝山口健二・吉弘勝幸・野村マリ子・池田智恵子・林谷典子・森本賢策・蒲池勝洋（太宰府星陽会）
○奨励賞＝大田キミヨ・北川英昭・前田和宏・柴田美津子・安永奈智子（香椎了陽会）・古賀博子（岩戸扇陽会）・郷原菊代（岩戸征陽会）

●高齢者の三部
◎入　賞＝松嶋紀代子・平山エミ子・舩木久美子・楢崎忠吾
○奨励賞＝近藤晴子・後藤ひろみ・山田豊子・森和教・中島昭代・富永延代（太宰府綾陽会）・石橋敬子（小郡星陽会）・白石眞一（吟友光陽会）

第八回八葉会

『二人会』より通算二十回目

『八葉会』の前身の『二人会』が、『河津義政先生と志柿三刀夢先生』の発案で開始されて、今年で二十周年の記念すべき年を迎えました。

八葉会に相応しく『第八回目』となった今大会は、去る四月九日（日）太宰府市中央公民館（プラム・カルコア太宰府）大ホールで盛大に開催された。

吟詠を中心とした大会は各団体、各連盟が定期的に実施されていますし、剣詩舞の競演大会も行われていますが、この大会の魅力は純粋に、剣詩舞界を担う人材、特に幼少青年の育成を目的として続けられて来たことです。

営々と続けられて来たこの舞台から、多くの優秀な剣士や舞人が巣立って行き現在、剣詩界で活躍中です。

今大会も、日頃から剣詩舞会会員の前向きな姿勢に敬意を表し、側面から協力協賛して来た西日本吟詠会をはじめ、多くの吟詠会の人々が友情出演を行いました。

又、伴奏も常連の原　國龍先生・原タカ子先生が務められました。

演舞は、加盟剣詩舞会の正義流政武館、夢刀流吟剣詩舞同志社、桃山流みやこ舞、静山流桃芳会等の幼少青年から各会長クラスまで約五十番が組まれ、次々と発表された。

本会からは、志柿先生の地吟「和歌・幾山河」を務めた諫山宗家をはじめ、十七名が地吟吟士を務めた。

「某楼に飲す」を舞う河津義政先生

謝辞を述べられる志柿三刀夢先生

吟声人語

私達西日本吟詠会は、吟界で最も権威のある日本吟詠総連盟に加盟している。現在三十五名が九州地区に所属しているが、この程、その総本部の理事長に、久々に九州出身者が就任するという朗報に接した。

▼前理事長小林北鵬先生の勇退に伴う人事であるが、後任に永年副理事長として理事長を支えて来られた、吟詠道啓峰流啓峰吟詠会宗家会長の西山啓峰先生の就任が決定した。

▼過去には、熊本の朗吟櫻山流宗家故梅田櫻山先生が務められたことがあり、九州地区からは、久々の本格的エースの登板で、その活躍が、大いに期待されている。

▼新型コロナウイルス騒動で中止になった、地元福岡での全国大会の実現に向けて手腕を発揮して貰いたいものです。祝賀会も予定されているようですが、先ずは、心からお祝いを申し上げます。

〈岳〉

九吟連春季大会開催!!

福岡・筑後予選大会

九州吟詠剣詩舞連盟主催、第八十一回春季競吟大会が、去る二月二十四日（金）プラム・カルコア太宰府多目的ホールで開催された。

開会の言葉　川原南岳先生

会詩合吟誘導の諏訪扇翠先生

本会からも多数の会員が出吟し、日頃の練習の成果を堂々と発表。各部門とも多くの入賞者を輩出した。

諫山大会会長挨拶

諫山岳陽大会会長が挨拶で、「九吟連は歴史のある連盟で、私達は大切に守って来た。コロナ禍で、連盟会員が減少したが、何とか伝統の灯を消さないよう、頑張っている」と話された。入賞者にして決選資格を与えられた者は、プラム・カルコア太宰府における決選大会（四月二十九日）（祝）に出場する。

閉会の言葉　原　国龍先生

当日の入賞者は次の通り。

◆小学生の部

○入　賞

池田夏音（太宰府慧陽会）

◆青年の部

○入　賞

池田華月（太宰府慧陽会）
池田莉月（太宰府慧陽会）

◆熟年の部

○入　賞

倉内京陽師範代
廣橋岬陽師範代
今村利月（太宰府啓陽会）

◆高年の二部

○入　賞

鳥井幸陽宗伝
有岡紘陽宗師範
武内史陽師範代
冨永延峰（太宰府綾陽会）
郷原菊峰（岩戸征陽会）
久賀節峰（岩戸扇陽会）
服部征山（香椎晴陽会）
蒲池香山（太宰府星陽会）
中垣千山（香椎晴陽会）

○奨励賞

古賀富陽師範
古賀博峰（岩戸扇陽会）

◆高年の一部

○入　賞

成海宝陽宗師範
河原田和陽宗師範
後藤佳陽宗師範
山田啓陽宗師範
岸　凛陽宗師範
北川英陽宗師範
吉弘翔陽宗師範
森田綾陽総師範
楢崎忠陽総師範
大田心陽師範
柴田勘陽師範
池田慧陽師範
矢野菫陽師範代
上野詩陽師範代
松岡葵陽師範代
森田弘陽師範代
森　令陽師範代
大神靖陽師範代
林谷典陽師範代
白石湊陽師範代
梶原翠陽師範代
森本賢陽師範代
山口真峰（太宰府蓮陽会）
杉谷玲峰（香椎了陽会）
萱嶋功峰（太宰府星陽会）
白石承峰（吟友光陽会）
萱嶋桃峰（太宰府星陽会）
土屋綾峰（北野督陽会）
蒲池勝峰（太宰府星陽会）
中川万峰（太宰府君陽会）
安永奈峰（香椎了陽会）
竹内恵峰（香椎晴陽会）
小野律山（太宰府啓陽会）
安枝昭山（太宰府星陽会）
牧野隆山（香椎晴陽会）
石橋舟月（吟友忠陽会）
佐々木明月（北野真陽会）

和歌・高年1部 両部門入賞者代表の池田慧陽師範

○奨励賞

白石紀峰（吟友宝陽会）
住田博山（太宰府奏陽会）
梅嵜道山（太宰府恵陽会）
益永睦月（太宰府仁陽会）
早野俊川（朝倉英陽会）
高円寺正川（睦幸陽会）
原野信之（吟友政陽会）
今泉鶴月（太宰府君陽会）

◆和歌の部

○入　賞

後藤佳陽宗師範
山田啓陽宗師範
吉弘翔陽宗師範
河原田和陽宗師範
楢崎忠陽総師範
森田綾陽総師範
池田慧陽師範
柴田勘陽師範
森　令陽師範代
林谷典陽師範代

白石湊陽師範代
梶原翠陽師範代
森本賢陽師範代
楢原智陽師範代
廣橋岬陽師範代
白石承峰（吟友光陽会）
蒲池勝峰（太宰府星陽会）
郷原菊峰（岩戸征陽会）
竹内恵峰（香椎晴陽会）

○奨励賞

岸　凛陽宗師範
北川英陽宗師範
松岡葵陽師範代
倉内京陽師範代
萱嶋桃峰（太宰府星陽会）
久我節峰（岩戸扇陽会）
杉谷玲峰（香椎了陽会）
溝口静峰（岩戸征陽会）
原　信山（太宰府星陽会）

筑後地区予選大会

●二月十一日（基山町民会館）

◆高年一部

○入　賞

古賀西陽宗師範
田中了陽宗師範
坂本恭陽師範代
惠内隆陽師範代
矢津田煌陽師範代
栗須紘峰（筑紫野聡陽会）
柴田徳峰（雅陽会）
八尋信山（筑紫野学陽会）
米倉吉山（筑紫野聡陽会）

○奨励賞

藤田夏山（太宰府正陽会）
平山江山（筑紫野学陽会）
山本喜久山（筑紫野学陽会）

◆高年二部

○入　賞

近藤晴陽宗師範
田中観陽宗師範
本田雅陽宗師範
吉村孔陽師範代
中尾映陽師範代
内田龍陽師範代
坂本綾峰（雅陽会）
河村光山（愛宕西陽会）

○奨励賞

前田学陽師範
中野正山（愛宕西陽会）

◆和歌の部

○入　賞

近藤晴陽宗師範
古賀西陽宗師範
田中了陽宗師範
前田学陽師範
惠内隆陽師範代
坂本恭陽師範代

○奨励賞

田中観陽宗師範
本田雅陽宗師範
江藤炎陽師範代
河村光山（愛宕西陽会）

新婚当時の思い出

シリーズ 16

宗師範　山田　啓陽

出会いは兄の関係で、明大のマンドリン演奏を聞きに行き、その折に花束贈呈をしました。その姿が良かったらしく帰りに声をかけられました。その後おつき合いをし、二人共末っ子ということで、数ヶ月で結婚の運びとなりました。

新婚旅行は五月の連休を利用して、大阪・京都で彼の希望で、大学時代四年間お世話になった下宿先、学生時代の友人四人への紹介。翌日より思い出深いキャンパス、紫式部ゆかりの石山寺等巡り、一挙に学生時代の彼を知ることが出来ました。帰りは飛行機。その年四十一年は、二月と四月に旅客機墜落事故で全員死亡があったばかりでもありました。

結婚生活は幸せな日々で、最初はテレビ。一年後は手廻し洗濯機。その後冷蔵庫と一つづつ増え、六年後に小さなマイホーム！

時が過ぎ、詩吟と高木先生に出会えたのは六十六才の時。五十六才で車の免許取得が好を得て、今日に至っています。

会では特別研修部でお世話させて頂いて、宗家会長、星陽副会長、多くの先輩の先生方、研修の皆様に恵まれ、昨年は曲水の宴に、朗詠者として参宴させて頂きました。これからも吟道十訓を教訓として心して行きたいと念じております。

春季大会（第一部）開催

西日本吟詠会総本部主催第六十回春季吟詠大会が三月二十一日（祝）プラム・カルコア太宰府で開催された。

開会の言葉　髙木宗伝

会詩合吟誘導の
諌山星陽副会長

審査規定を述べる
渡邉理事長

尚、高齢者には特別奨励賞が、一人ひとりに手渡された。

挨拶を述べる諌山宗家会長

大会会長挨拶の中で、諌山宗家は、「コロナの影響で新入会員が少なく、少し寂しい気がします。来年は創立九十五周年も控えており会員増強活動に取り組みたい。又、出場者の中にキラリと光る素質に恵まれた方が多かったのは、大へん嬉しく思いました。今後の成長が大いに楽しみです」と述べられた。

今様合吟誘導の古澤副会長

無伝・初伝・中伝の第一部出吟者が堂々と発表した。

この中から三十名が入賞を果たし、四月二十三日の（第二部）出場権を得た。

閉会の言葉　鳥井顧問

万歳三唱音頭　野村宗師

当日の入賞者は次の通り。

◆幼少年の部

池田夏音（太宰府慧陽会）

幼少年の部入賞　池田夏音さん

◆一般の部

○入　賞

池田華月（太宰府慧陽会）
沖　幸川（太宰府紘陽会）
森山義幸（小郡星陽会）
奥山静月（岩戸扇陽会）
柴田文川（吟友勘陽会）
内山節月（吟友宝陽会）
小島由紀子（睦幸陽会）
名和登茂子（太宰府仁陽会）
松浦誠月（岩戸昇陽会）
石井善川（小郡星陽会）
早野俊川（朝倉英陽会）
吉川栄月（太宰府星陽会）
夏梅千川（筑紫野聡陽会）
岡部兼月（笙陽会）
古賀環月（太宰府蓮陽会）
森　友子（吟友光陽会）
濱崎志月（太宰府星陽会）
野中康之（筑紫野観陽会）
野口柳川（愛宕西陽会）
黒岩鶴川（小郡星陽会）
中川礼川（太宰府仁陽会）
中野香川（北野真陽会）
植田幽川（小郡星陽会）
江藤雄川（北野真陽会）
江藤徹月（太宰府恵陽会）
平井幹川（小郡星陽会）
芳澤佳川（笙陽会）
泉田千月（太宰府仁陽会）
田中五川（岩戸扇陽会）
山﨑晴月（太宰府星陽会）

入賞者代表の池田華月さん

○奨励賞

原野保之（吟友政陽会）
中山由美子（岩戸梁陽会）
桑野勝月（太宰府啓陽会）
熊谷紀月（小郡星陽会）
立石昌月（岩戸昇陽会）
石橋敬月（小郡星陽会）
関岡択月（香椎晴陽会）
中村美川（太宰府紘陽会）
佐々木明月（北野真陽会）

奨励賞代表
原野保之さん

○新人奨励賞

小島由起子（睦幸陽会）
野中康之（筑紫野観陽会）
森　友子（吟友光陽会）

○特別奨励賞

荒巻秀月（吟友政陽会）
田中五川（岩戸扇陽会）
野中康之（筑紫野観陽会）
野口柳川（愛宕西陽会）

特別奨励賞
野口柳川さん・田中五川さん・野中康之さん

福岡県吟連コンクール

福岡県吟詠剣詩舞連盟（西山啓峰理事長）主催、第四十回コンクール大会が、令和五年三月五日（日）福岡市早良市民センターのホールで開催された。

今年も合吟の部と独吟の部の競吟大会が行われた。

大会会長挨拶の西山啓峰理事長

西山啓峰大会会長のご挨拶に続いて、合吟コンクールと独吟コンクールが行われた。成績発表終了後、前回の優勝者の合吟と独吟が披露され、立派な吟に、一同感銘を受けました。

表彰に続いて、閉会のことばは、村上英峰大会副会長が述べられ、一同万歳三唱して解散。

司会を務める野村宗師ら

当日の成績は次の通り。

◆合吟の部

○入　賞

倉内京陽師範代
稲毛紅陽師範代
白石湊陽師範代

合吟の部入賞
稲毛・倉内・白石各師範代

◆独吟の部

○入　賞

梁池梁陽宗師範
久保山孝陽宗師範
舩木燦陽宗師範
松嶋蓮陽宗師範

独吟の部入賞者
舩木・久保山・梁池・松嶋各宗師範

喜びの言葉

師範代　白石　湊陽

三月五日、福岡県吟連第四十回コンクール大会の合吟三人の部に出吟させて頂き、思いもかけず入賞出来ました。

これも偏に中島光陽先生の熱心なご指導のもと、心を一つにして練習を重ねた結果だと感謝しております。今後も日々精進してまいりますので、よろしくお願い致します。

宗師範　梁池　梁陽

コロナ感染が大きく影響し二〇一八年から三年間中止となり、昨年から再開となり、私自身五年ぶりの出吟でした。おなかから声が出ない、音程が安定しない。吟声ではなく、大きな声を出すだけで苦労しました。漢詩を忘れずに、最後迄しっかり吟じることが出来るだろうかと、マイクの前に立ったらマスクを取り、吟じるように指示されていたのに取り忘れ、幸いにもすぐに気付き吟じましたが、忘れる、思い出せない、が得意なお年頃になり、その中での入賞でした。本当に嬉しかったです。梁陽会の会員のお陰です。感謝です。

宗師範　松嶋　蓮陽

毎年春になると花粉症になり、今年は特にひどく、県吟連大会に出吟出来ないと思っていましたが、最後まで吟じることが出来、何とか入賞出来たことは、大へん喜ばしく思っています。

これからも吟道に精進し頑張って参ります。

宗師範　久保山　孝陽

競吟規定その七＝吟題・作者名・詩文の誤読、又は絶句があった場合は失格とする。

大会当日は、どうした訳か、マイクの前に立ったらNHK朝ドラのタイトル「舞い上がれ」と同様、舞い上がってしまいました。

思い起こせば、いつもは詩文のメモは手に握り締めるのですが、今回は、袂に入れてしまい、ちょっとしたいつもと違う行動が裏目に出てしまいました。

転句の後半から結句にかけて息が切れるという大失態!!何とか入賞し感謝です。

行事予定表

5月6日(土)特別研修会(天満宮杯)
5月7日(日)西吟連役員総会
5月11日(木)特別研修会(ポリドール)
5月14日(日)毎日吟士権(本選)
5月21日(日)特別研修会
5月28日(日)筑吟連50周年大会
6月4日(日)和歌朗詠大会
6月11日(日)天満宮杯(福岡)
6月16日(金)吟道奉賛会総会
6月25日(日)日総連九州大会(鳥栖)
7月2日(日)ポリドール(九州山口)
8月27日(日)天満宮杯(決選)
9月3日(日)快川吟詠会50周年大会
9月5日(火)奥伝・皆伝審査会
10月1日(日)秋季大会
10月8日(日)日総連全国大会(大阪)
10月9日(月祝)ポリドール決選(大阪)
10月22日(日)県吟連秋季大会
10月24日(火)太宰府天満宮秋思祭
10月29日(日)佐賀松風会70周年
11月23日(木祝)九吟連秋季大会
12月3日(日)九吟連本部役員会(松井)
12月10日(日)日総連九州大会(ガスホール)

令和6年

1月5日(金)新年会(一品香)
1月7日(日)九吟連福岡役員会(松井)
3月10日(日)九吟連福岡予選
3月17日(日)春季大会(第一部)
3月23日(土)・24日(日)毎日吟士権(福岡)
4月7日(日)毎日吟士権(北九州)
4月14日(日)春季大会(第二部)予定
4月28日(日)九吟連決選(予定)
5月12日(日)毎日吟士権本選(予定)

吟道証の清めお祓い

令和五年四月八日（土）

太宰府天満宮本殿において、諫山宗家会長をはじめ幹部役員の先生方が同席の上、準師範、本部師範代、支部師範代、指導師範代の部の授伝対象者が参列し、吟道証の清めお祓いが、厳かに執り行われた。

お祓いの後、参加者全員で記念写真を行いました。

吟道証授伝者

◆準師範昇格者

○矢野菫陽　○諫山崇陽
○山口皇陽　○森　令陽

◆本部師範代昇格者

○武内史陽　○前原正陽
○古賀朝陽　○竹田梅陽
○林谷典陽　○廣橋岬陽
○森本賢陽　○舩木涼陽

◆支部師範代昇格者

○矢津田煌陽　○古賀照陽
○惠内隆陽　○内田龍陽
○江藤炎陽

◆指導師範代昇格者

○米倉信陽　○土屋彩陽
○郷原竹陽

◎準師範

矢野菫陽

諫山崇陽

山口皇陽

森　令陽

◎本部師範代

武内史陽

前原正陽

古賀朝陽

竹田梅陽

林谷典陽

廣橋岬陽

森本賢陽

舩木涼陽

◎支部師範代

矢津田煌陽

古賀照陽

惠内隆陽

内田龍陽

江藤炎陽

◎指導師範代

米倉信陽

土屋彩陽

郷原竹陽

第七期優秀吟士育成研修会終了式

第七期優秀吟士育成研修会の十二回目の研修会が去る四月九日（日）終了した。

終了式では、皆勤者二十七名に、全過程終了の認定証が、諫山宗家より一人ひとりに手渡された。

終了式終了後は、会場のプラム・カルコア太宰府において記念の集合写真撮影を行った。尚、現在第八期受講者を受付けています。希望者は特別研修部まで。

◆認定証受証者

○髙木仁陽宗伝
○山口呂陽宗師範
○成海宝陽宗師範
○柴田勘陽師範
○森　令陽本部師範代
○坂本恭陽支部師範代
○林谷典陽支部師範代
○森本賢陽支部師範代
○江藤炎陽支部師範代
○香月穂陽指導師範代
○白石湊陽指導師範代
○稲毛紅陽指導師範代
○倉内京陽指導師範代
○郷原菊峰（岩戸征陽会）
○白石承峰（吟友光陽会）
○惠内瑞峰（雅陽会）
○坂本綾峰（雅陽会）
○栗須弘峰（雅陽会）
○白石紀峰（吟友宝陽会）
○中内鶴峰（太宰府恵陽会）
○北川孝山（朝倉英陽会）
○北川忠山（朝倉英陽会）
○小野律山（太宰府啓陽会）
○中垣千山（香椎晴陽会）
○石橋舟月（吟友忠陽会）
○早野俊川（朝倉英陽会）
○沖　幸川（太宰府紘陽会）

奉賛会だより　奉納大会を盛大に開催

日本吟道奉賛会福岡地方本部（野村聡陽本部長）主催第四十九回全国太宰府天満宮吟剣詩舞奉納大会が、去る四月二日（日）太宰館まほろばホールにて盛大に開催された。

野村大会会長の挨拶

県外から、心参で日本吟道奉賛会総本部会長伊藤清洲先生ほか六名の方々、山口地方本部長野村誠幸先生ほか十三名の先生と地元福岡地方本部所属の会員による吟詠剣詩舞が奉納された。

大会に先立ち、神事では、神官の祝詞奏上、玉串奉天に続いて、参加者全員で御祭神道真公作「九月十日」を献吟した。

太宰府天満宮
松尾太輔様の祝辞

式典では、野村聡陽本部長の挨拶に続き、ご来賓の太宰府天満宮の松尾太輔様の心温まる祝辞をいただき、続いて野村誠幸本部長の祝辞があった。

太宰府地区指導者の「春日山懐古」大合吟

亀谷鶯風副本部長

大会終了後は、恒例の直会に移り、歓談を尽くし全ての行事を終了した。

「漢詩と諺」シリーズ No.15

春眠暁を覚えず

この諺の出典は、唐の盛期の詩人、孟浩然です。

田園詩人として有名で、特に五言詩が巧みといわれています。

春　暁

春眠暁を覚えず
処々啼鳥を聞く
夜来風雨の声
花落つること知んぬ多少ぞ

春の眠りは心地よいもの、夜の明けたのにも気付きません。さて、昨夜来の風雨で、どんなに花が散ってしまったであろうという、のどかな春の朝を詠んでいます。この起句は、古来名句として、知らぬ人はありません。

寒い冬の夜は、寒さで夜中に何度も目を覚したりして安眠出来なかったけれども、暖かくなったら、朝の来たのも気づかずぐっすり眠る、というのは、現代の私達でも身に覚えがあることで、つい（春眠、暁を覚えず）とつぶやいてしまいますね。同じ様に、春の朝の、眠りがなかなかさめない、のんびりとした漢詩を捜してみましたが、なかなか見つかりませんでした。

漢詩では「寂しい」とか「老う」とか、「終に還らず」とかの文章が多いのです。

でも、一つみつけました。王維の「田園楽」です。

田園楽（其の六）　王維

桃は紅　復宿雨を含み
柳は緑更に春煙を帯ぶ
花落ちて家僅　未だ掃わず
鶯啼いて山客猶お眠る

桃の花は紅に咲き、昨日の雨を含んでいっそう鮮やかに、柳の芽は緑に萌えいで、春のかすみを帯びて、ますます美しい。花びらが庭に落ちているのに、まだ召し使いは掃除もしないまま。

折から鶯がさえずっているのに、山の隠者は、まだ眠っている、という詩です。

のどかな田園の風景と、朝になってもまだ眠っている隠者の光景が、心をなごませます。

ニコニコBOX
浄財ありがとうございました

（三月三十一日現在）
（順不同・敬称略）

・豊福恒陽　・梁池梁陽
・野村聡陽　・田中了陽
・諌山星陽　・本田雅陽
・山口呂陽　・成海宝陽
・松嶋蓮陽　・中島光陽
・久保山孝陽　・橋口康陽
・平山恵陽　・森田綾陽
・大田君陽　・池田慧陽
・小松扇陽　・山口皇陽
・濱地錦陽　・倉内京陽
・田中観陽　・香月穂陽
・近藤晴陽　・稲毛紅陽
・舩木燦陽　・白石湊陽
・河原田和陽　・竹田梅陽
・岸　凛陽　・入江炎陽
・古賀西陽　・事業部一同
・吉弘翔陽

／ようこそ／西日本吟詠会へ

（敬称略）

◆笙　陽　会　＝岩本はる子
◆筑紫野観陽会＝森下久和
　　野中康之
◆岩戸凛陽会　＝宮内設子

小郡星陽会の熊谷紀月さん 県知事表彰

熊谷紀月（本名きよ）さんは、去る三月二十一日、第二十回青少年アンビシャス運動参加団体等表彰で個人表彰部門の県知事賞を受賞されました。

熊谷さん（右から2人目）

誠におめでとうございます。この賞は、青少年アンビシャス運動参加団体等の中で、特に顕著な活動を続けている団体や個人が表彰されるものです。

熊谷さんは、小郡市に於いて長年に亘り、青少年の健全な育成の為に「くまさん文庫」を開設。多くの人々に解放し、運営と活動を続けてこられ、この度はその功績が認められ、表彰されたものです。

表彰式風景（右 熊谷さん）

当日の表彰式は、福岡市東区箱崎の福岡リーセントホテルで行われました。

又、熊谷さんは、終戦の際、中国満州で父母妹三人と離ればなれとなった経験を「帰って来て欲しかった父」と題し、自費出版されていますが、その内容の素晴らしさが認められ、第25回日本自費出版文化賞を受賞されています。

この度の県知事賞受賞に際し、喜びの声を寄せて頂きましたのでご紹介します。

感謝状を手にして

感謝状を頂いて

小郡星陽会　熊谷　紀月

先日、青少年アンビシャス運動に長年協力したとの事で福岡県より感謝状を頂き大変嬉しく、光栄に思っております。これは、私一人の力ではなく、子どもたちをはじめ、会員スタッフの皆様方のご協力のお陰で頂いたものです。

皆様方に心から感謝致します。これからもボランティア活動を楽しく元気に続けられればと願っています。又趣味の吟詠にも頑張って参りたいと思っています。

ポリドール創立50周年

ポリドール吟詠会（小林快川会長）は、今年創立50周年を迎えました。

恒例の全国吟詠コンクール九州山口大会は、来る七月二日（日）プラムカルコア太宰府で開催されますが、現在出吟者を募集中です。

出吟希望者は、事務局長小松扇陽宛お問合せ下さい。

50周年記念行事は、ポリドール専属吟士故戸室清山先生墓参が企画されています。

熱中症に気を付けましょう!!

熱中症とは。

熱中症とは、平熱に保つために汗をかき、体内の水分や塩分の減少や、血液の流れが滞るなどして体温が上昇して重要な臓器が高温にさらされたりすることにより発症する障害の事です。

熱中症は、生命にかかわりますが、一人ひとりが熱中症について知識を持ち、行動することで防げます。

◆熱中症の症状

●めまい・立ちくらみ・手足のしびれ・気分が悪くなる。
●頭痛・吐き気・体がだるい・体がぐったりする。
●意識障害・けいれん・体が熱い。

◆熱中症が疑われたら

〔1〕涼しい場所へ
●冷房が効いている室内や風通しのよい日陰など、涼しい場所へ避難する。

〔2〕体を冷やす
●衣服をゆるめて、首の周り、脇の下、足の付け根などを冷やす。

〔3〕水分補給
●水分・塩分・経口補水液などを補給する。

◆水分・塩分の補給をしても症状が改善しない場合は、医療機関を受診する。

◆自力で水が飲めない場合や意識がない場合は、そばにいる人が、直ぐに救急車を呼びましょう!!

●基本的な熱中症対策

◆規則正しい食生活をする。

●朝食・昼食・夕食をしっかり食べる。
●主食・主菜・副食を揃えた、偏りのないバランスの良い食事を摂る。
●十充な休息をとる。

◆こまめに水分補給をする。

●のどが渇く前に水分補給。
●起床時や入浴前後にも水分を補給する。
●大汗をかいたあとの塩分補給も忘れずに。

◆暑さに備えた事前の体力づくりが大切です。

◆炎天下や高温多湿での行動を避ける。

◆冷房や扇風機で室内温度を調節、風通しをよくする。

味のある吟詠の提案〔6〕

「母音」と「ん」の発声。「いい声を出す最も大切な条件」

作曲家で尺八演奏家の故船川利夫先生から吟界にお寄せいただいた「味のある吟詠への提言」シリーズも今回の六回目で最終回となりました。

今回は、発声法そのものについて解説します。

私達は、毎日吟士権常任審査員の山中梅鈴先生が講評の中で、「一、声。二、節。三、音程」と話されることを耳にしたことが、あると思います。

よい吟詠の三要素の中、先ず「一、声」とは、「よく練れた、美しい吟声」を指してあると理解出来ます。

日本語で綴られた詩歌を朗詠する吟詠は、「子音」「母音」「ん」（撥音）からなりたっている、これら全ての音の発声が大切となります。

先ず、マスターしなければならないのは、ア・イ・ウ・エ・オの五つの母音と撥ねる音、つまり「ん」です。

その前に「生字」（うみじ）についてお話します。「生字」とは、お謡・浄瑠璃・長唄・民謡など、日本の声楽で、ある音（おん）を長く延ばしてうたう場合に延ばされる母音部分を言います。例えば、「し」を「しい」と延ばすときの「い」の類です。

又、「けれ」を「けれえ」という時の「え」や、「こそ」を「こそお」を引いていう「お」の類がそれです。

当然、吟詠も専門用語で「生字」と言いますが、この生字の「母音」・「ん」をきれいに発声することは、いい声を出す大切な条件となります。

音声は口形で変化する

人間の音声は、唇の開き具合、口の中（口腔）の状態のどの奥（咽腔）の状態などの変化によって、それぞれ異なる表現がつくられます。

ですから、発声する時はまず第一に口の開き、続いて口の中、のどの奥の状態などに十分気をつけなければなりません。

吟詠は、日本語で綴られた詩の中身を日本語で表現する音楽ですから、同じ音声でも、よく響く音声であるほかに、日本語として明確に響く音声が不可欠となります。

つまり、詩文の一語一語をはっきりと伝えるような明確で、しかも表情豊かな表現（発声）がなされなければなりません。

●「ア」の発声

第3図を見て下さい。口の開き具合は大きなアクビをした状態が10としたら、8程度の開きにします。口腔を十文字に切ったとしたら、真中よりやや前で音を響かせます。

●「イ」の発声

第4図を見て下さい。音は口腔の下半分、奥歯の方に響かせます。

●「ウ」の発声

第5図に示したように、口腔の前半分に響かせるようにします。

●「エ」の発声

「エ」は、「イ」と同様、なまりが出易い母音ですが、発声の形をマスターすればきれいな「エ」を出すことが出来ます。第6図のように口は「イ」よりも若干開いた形になります。舌の位置は下顎の内側中央に置きます。

音は口腔の上半分、両方の目尻の下の骨のあたりに響かせる感じで発声します。

●「オ」の発声

「オ」は、「ア」と同じ要領ですが、第7図のように、唇はつぼめて丸くし、前に突き出した形で発声します。

響かせる位置は口腔の後半分、後頭部のくぼみに響かせるように発声します。

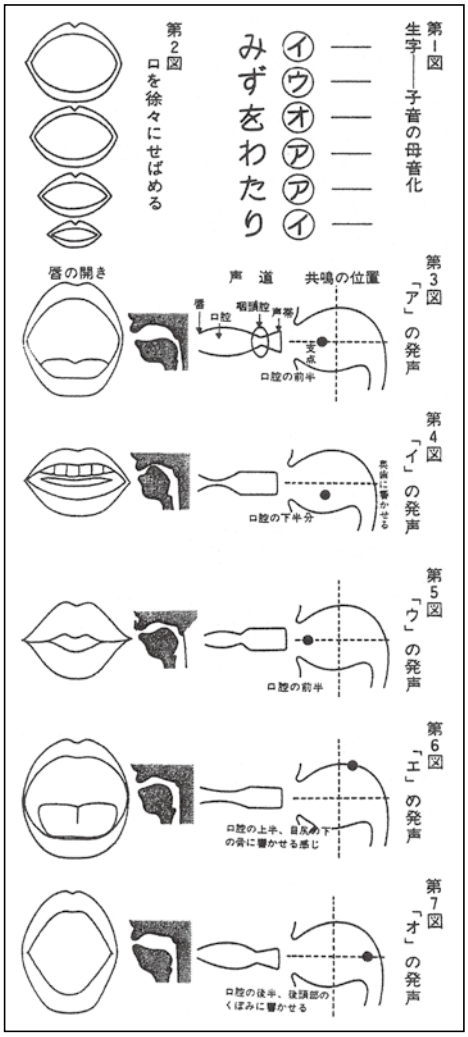
●「ん」の発声

「ん」は撥音（はつおん）とも、「通鼻音」とも言われるように、唇を軽くとじて、声を鼻から出すようにします。

原則として、唇を開いていては、きれいな「ん」は出てきません。

ただし、唇をとじた場合でも、口腔や咽腔の状態を変化させることにより、声の質が違ってきます。

力強い「ん」を発声する際、口唇をほんの少し半開きとし、全ての声を鼻から出す方法を取ると美しく強目の「ん」を発声できます。但し、少しでも、唇から発声すると「ウ」になりますので、注意が必要です。



西日本吟詠会後援会 会長 熊本 誠様ご逝去

ありし日の熊本会長

本会後援会会長 熊本 誠様におかれましては、かねて怪我療養中のところ、ご家族様の献身的なご看病の甲斐も無く、誤飲性肺炎の為四月三日急逝されました。

お通夜、葬儀は、時節柄近親者のみで執り行われました。

本会からは、後日、諫山岳陽宗家会長が、会を代表して弔問にお伺いし、ご生前のご厚情に御礼を申し上げると共に、ご霊前にお別れのご挨拶を申し上げました。

ご戒名は「西方院誠誉真覚浄圓居士」享年八十七歳。

熊本 誠様は、RKB毎日放送株式会社の代表取締役副社長を退任されたあと同社相談役を務められていましたが、本会が平成十九年三月、後援会組織を設立した際、懇願して、初代会長にご就任いただきました。

爾来、公私共にご多用な中、十六年間に亘り、会長職を務めていただきました。

現在三百名を有する後援会の発展に、物心共にご支援いただき、後援会役員及び会員一同、感謝に堪えません。

特に、本会会報「吟友」の新年号には、毎回、心温まるご祝辞をお寄せいただき、私達を励ましていただきました。

又、節目の記念大会にもご参列いただき、お祝いのご挨拶を頂戴したことも記憶に新しいところです。

会員一同、永年のご厚誼を感謝しますと共に、心安らかなご永眠をお祈りします。

会友部長　田中　了陽

熊本 誠様を偲んで

諫山　岳陽

大腿骨を骨折され、入院リハビリ加療中と伺っていましたので、突然の訃報に驚いています。

今、熊本会長様を喪い、七年前の双子の兄、眞司（吟号、樟陽）の死去以来、大きなショックを受けています。

一卵性双生児との死別がこれ程、悲しく辛いものと思い知って以来の訃報に愕然としています。

心から尊敬し、信頼申し上げていただけに、残念で堪りません。

人生百年時代の今、八十代での死は早過ぎます。

こうと判っていたら、もっともっと色々なお話を伺っておくべきだったと後悔しているところです。

熊本様には、現役時代、筆舌に尽し難い程、公私共にお世話になりました。

その上、永年に亘り、本会の後援会長までお引受けいただき、何のご恩返しも出来ないまま今日に至り、心からお詫び申し上げます。

現役時代もそうでしたが私に対しては、いつも笑顔で接して頂き、今でも温顔が目に浮かんで参ります。

思い出話は、山程ありますが、そちらでお会いした時の楽しみに取っておきたいと思います。

つい最近本誌上で「人望あるリーダー像」を紹介した方がおられましたが、私は、正にその後姿を熊本会長に見出し、少しでも近づこうとしていたのではと、今になって思っています。

長い間、ご一緒させて頂き確信したよき先輩でした。

一、寛容であり乍ら、厳しい一面がある。
一、柔和であり乍ら、芯が通っている。
一、慎重であり乍ら、物事の処理が機敏。
一、有能であり乍ら、相手を見下さない。
一、従順であり乍ら、意志が強い。
一、直情であり乍ら、心は温かい。
一、大まかであり乍ら、筋は通す。
一、決断力に富み乍ら、思慮深い。
一、行動力に富み乍ら、善悪のケジメは、わきまえている。

熊本会長は、常々私に「一流の証は、何事も「千」という単位ですよ」と言われていました。吟詠会も千名でやっと一流と呼ばれると強調されたことを思い出しています。毎年祝辞に必ず一句添えてありました。

俳句を通してありし日の故人を偲びたいと思います。

・白髪に花を翳して吟初め
・菅公の歌碑高々と亀の鳴く
・注連飾して　都府の旭に　神輿行く
・四方の海　波涛静かなれ　うめの花
・白梅に　初心思いて　初稽古
・吟声うねり　己が覚悟や　明けの春
・これからは　自然のままに　冬の梅
・吟始め　すっくと庭に　立ちにけり
・冬萌えに　ありやなしやと　己問ふ
・身を浄め　神棚前で　初詣

多くの思い出をありがとうございました。

（合掌）

国民文化祭を終えて

宮崎鶯陽会　宗師範　萩森　鶯陽

全国国民文化祭は、コロナ禍の影響で、二度も中止になり、去る二月二十六日宮崎市青武文化ホールで開催されました。宮崎鶯陽会は、先ず会員八名による合吟を行いました。私の孫、颯斗も出場しました。

第三部は、「宮崎の伝統文化、神話のふるさと」と銘打っての構成吟で、詩吟と和歌と剣詩舞の三位一体の華やかな舞台が披露されました。

第四部では、吟剣詩舞道界の若きスター集団「スーパーチーム」というメンバーによる企画吟が発表されました。

このメンバーは、全国大会で優秀な成績を残した十八歳から三十歳までの若い人達で構成されています。

若い人々が順調に育っていることを肌身で感じた次第です。私達も若い人に負けないように、頑張って行きたいと思っています。

合吟で出場の釋迦郡颯斗君（中央）

活動報告

岩戸扇陽会　高木　青鳳

おかげ様で二〇二〇年に第一子、二〇二二年には第二子二人の女の子を出産し、「かわいいなぁ」「こらーそっち行っちゃダメー！」「お化粧したのはいつだろう…」という、賑やかを通り越した怒涛の毎日を過ごしています。第一子妊娠中には、まさかコロナの禍の中で子育てをすることになるなんて、二人も子供を持てるなんて考えてもみませんでした。そして思いもしなかったことがもう一つ。コロナが流行りはじめる直前、琵琶の師匠が急逝したのです。ちょうど稽古も産休中のことだったので、三年以上経った今も正直実感が湧かず。でも、師匠はいない。私自身も妊娠中で身動きがとれない状況で、「一人になってしまった…。師匠がいないなら、琵琶止めようかな」「もう琵琶は続けられないのかな」と思っていました。ですがそんな中「貴女に習いたい」「琵琶が面白そうだから」と習いに来てくださる方が、ポツリポツリと出てきたのです。え？私に習ってくれる？私が教えていいと？どういう気持ちでいたら良いかも分からないまま。でもお弟子さんがいる。もう止めるなんて言っていられません。人に教えるということがどんなに責任の重いことか。今更ながら、琵琶の師匠や吟詠会の先生方の気持ちが、じわじわと身に染みてきます。そして、お弟子さんがあるということが、どれだけ有難いことかも、つくづくと。いま私が元気に琵琶を弾いていられるのは、家族や聴いてくださるお客様はもちろん、お弟子さんの存在なくしては考えられません。私は恩返しの意味も込めて、みんなが楽しく琵琶を弾ける、本気で琵琶と向き合える環境を作るべく、元いた組織を離れ、新しい会派を立ち上げました。青鳳の名前から一字取って『おおとり座』。鳥が自由に空を羽ばたくように自由で、その人の「やりたい！が叶う」奏者の個性あふれる琵琶を目指して、皆で稽古を楽しんでいるところです。昨年の秋には、小規模ながら会派はじめての演奏会も開くことができました。今は子供が小さいこともあり、毎日存分に琵琶に時間を充てることは難しいですが、これから演奏会も毎年開催し、お弟子さんもお客様にも、そして私も。心が温かくなったり、あるいは火がついたり。琵琶で「それぞれの心に灯がともるような時間」を、たくさん作っていきたいと思っています。

亀井神道流西日本吟詠会
ホームページご紹介
ホームページアドレス
https://kameigin.com/

会員投稿

なつかしき人

岩戸扇陽会　久我　節峰

・六十路（むそじ）より母なき我を
育くみし
祖母転びましき百歳を前に

・病む父と生（あ）れし児三人（みたり）
継母（はは）負いき
垣間見幼き胸を痛めし

・妹の長き手術を待つ合間
ともに遊びし記憶を探す

・老いて子に先立たれし母
病みつつも
生きゆくさまは健気なるかな

・日焼けせしわが手まぶしみ
ベッドより
母は白き手恥じらいましき

・心なき母の歩行器向う方
老い人吹くやハモニカの声

・身寵（みまか）りし母の若き日傍（かたわ）らに
トンボ眼鏡の父が写れり

「我が家の家宝」シリーズ㊳

宗師範　田中　了陽

我が家では毎年、三月の初めから、四月の三日までおひな様を飾ります。

このおひな様は、今年年女四十八才になる娘が生まれた時に、実家の母が孫の成長を願って、贈ってくれたものです。

当時は七段飾りのおひな様は、値段もそんなに安くはなかっただろうけど、私の嫁ぎ先の広い座敷にあわせて、大きな七段飾りを買ってくれたのだと、今さらに母の愛を感じています。

その母は二十七年前、くも膜下出血で、あっという間にこの世を去っていきました。

毎年かかさず飾るおひな様は、最初私一人で飾っていましたが、その内娘と二人で、今では孫も一緒に、賑やかに飾っています。

四十八年出し続けるおひな様は着物の色も少しあせ、お道具も少しいたんでいますが、母を想い出させる我が家の宝物です。

私の秘伝料理シリーズ㉕

オムレツ

師範　池田　慧陽

我が家では、子供達に「何が食べたい？」と聞くと声をそろえて「オムレツ」と言ってくれていました。今では、嫁も味を受け継いでくれて孫達も大好きです。他のお家とは、ちょっと違います。それは甘味がある事です。作り方はとてもシンプルです。

牛豚合びき肉300gと半月切りにした玉ねぎ1個を加えて炒めます。我が家は、人数が多いので、かさ増しにジャガイモとしめじを入れたりします。

合挽肉に火が通ったら、砂糖と醤油で味付けしていきます。

別のフライパンで玉子を焼きますが、その前に玉子には少しマヨネーズを入れて混ぜておきます。

あとは、うす焼きに焼いた玉子の上に、先程の具をのせて包んだら出来上りです。

会員投稿

近況報告

総師範　橋口　康陽

昨年はコロナに始まり食道ガンの手術をし、十一月には私の不注意から怪我をして又入院と、皆様には色々と御心配をおかけし、申し訳ありませんでした。

深くお詫び致します。

今年こそは、何事にも注意して、がんばりたいと思います。今後共、どうぞよろしくお願い致します。

詩吟との出会い

太宰府綾陽会支部長　冨永　延峰

私の吟との出会いは、駅で偶然、古澤奏陽先生から「詩吟、又、始めませんか」と声をかけていただいたことでした。二十年前、西日本吟詠会を家庭の事情で退会していましたので、迷いましたが、吟の魅力に惹かれ、お稽古に通い始めました。

入会後、孫の結婚披露宴で祝吟を披露し、孫にも感謝されました。又、昨年は思いがけなく、毎日吟士権の高齢者三部で三位の賞をいただき、とても励みとなりました。

今年、地区老人会から新年会での詩吟依頼があり「宝船」を吟じました。毎日、発声練習を欠かさず、今では詩吟は健康の源です。先生方、吟友の皆さんに感謝しています。

今年は米寿を迎えますが、健康に気をつけて、詩吟頑張りたいと思います。

崇敬会会員を募集しています
貴方も会員になりませんか？

私達は、太宰府天満宮崇敬会に入会、西日本吟詠会支部会員として、年1回の清掃奉仕活動のほか、天満宮様主催の旅行会や、崇敬会奉幣大祭に参加させて頂いています。

特に、大祭での講演会は、毎回著名な講師による素晴らしいお話を聞くことが出来、大好評です。又、会員には為になる会報や有難いお札等も配布されます。正会員と家族会員があります。

入会ご希望の方は、秘書部まで、お申し込み下さい。

太宰府天満宮「曲水の宴」に朗詠で参宴

副会長　諫山　星陽

太宰府天満宮の恒例行事「曲水の宴」が去る三月五日(日)曲水の庭で催された。

当日は、絶好の天候に恵まれ、満開の梅花の下で、古式豊かに平安絵巻が再現された。

宴は、神官さんの祝詞奏上に始まり、巫女さんの神楽舞「飛梅の舞」に続き、箏曲演奏に合わせて、白拍子姿の艶やかな舞が披露された。再興されて今年で五十九回目を迎えた曲水の宴に招待された詠み人が、水の流れのふちに着座すると、愈々宴が始まりました。盃が自分の前を通りすぎるまでに、歌を詠み短冊に認めます。盃の酒を飲んで次へ渡すと、待機した稚児さんが短冊を朗詠者に渡すと、朗々たる声でゆったりと読み上げていきます。

主な詠み人には、TVQアナウンサーの中嶋　空さんや太宰府ライオンズクラブの梅寄宰司さん、異色の参宴者としてアメリカ領事領事館主席領事のチュカ・アシーケさんもおられ素敵な和歌を披露された。

今年は、本会から河原田和陽、本田雅陽、中島光陽各宗師範、諫山星陽の四名が朗詠者に選ばれて、緊張感の中にも朗々と詠じて大役を果した。

今年は、曲水の宴終了後新型コロナ禍の影響で中止されていた「直会」も催され好天に恵まれ成功裡に無事終了した。

来年も三月の第一日曜日に、記念すべき第六十回の曲水の宴が催されます。見学したいと思われる方は、是非足を運ばれることをお勧めします。

太宰府天満宮　第五十九回『曲水の宴』参宴記念　令和5年3月5日

「曲水の宴」に参宴して

宗師範　河原田　和陽

三月五日(日)に、梅花の下で、平安時代の宮中行事を再現する曲水の宴が執り行われました。この日は好天に恵まれて、大勢の観客の中、十二単衣の姫や、平安束帯に身を包んだ参加者が詩歌を詠み、私達が和歌朗詠をしました。

星陽先生にご指導を受けて朗詠させて頂きました。貴重な経験をありがとうございました。

宗師範　本田　雅陽

梅の香ただよう春の佳き日、第五十九回「曲水の宴」が催されました。

古式豊かな平安絵巻が再現された神苑で修祓の儀から始まり、巫女さん達による「飛梅の舞」、白拍子の優雅な舞に続き、雅楽奏楽が流れる中参宴者入庭。「盃の儀」が始まりました。詠み人からの短冊が可愛い稚児の手から届けられ、緊張のなかにも無事に詠ずる事が出来た喜びに感動しました。

後日談ですが、私が朗詠させて頂いた和歌に、

「春の宴　香り気高梅の花
尼の幸せ　祈るこころに」

この「尼の幸せ」はウクライナの尼の平穏を願って詠んだとのこと。思わず手を合わせました。

本田宗師範と河原田宗師範（右）

宗師範　中島　光陽

太宰府天満宮の「曲水の宴」に初めて朗詠者として参宴させて頂きました。

当日、朗詠する和歌が決まり、私は三首担当させて頂くことになり、開宴前に姫や官人の装束姿の作者にご挨拶に行きました。いつも、作者の思いを伝える吟詠を心がけておりましたが、作者を目の前にしての朗詠は、殊の外緊張しました。碧天に映える満開の梅の下、一生懸命に朗詠しました。観覧席の家族も、とても喜んでおりました。今、思い返しても、私にとって夢のような時間でした。

この様な機会を頂き、心より感謝致します。これからも一層吟道に精進して参ります。

朗詠中の中島宗師範

編集後記

やっとマスクがとれるようになって、化粧をしようかという気分になりました。色々な花も咲きそろい、一年中で一番楽しい季節です。私達も元気を出して、働きます。

●広報部員
広報部長　：船木　燦陽
部長代行　：花田　宏陽
副部長　：船木　涼陽
部員　〃　：林谷　典陽
〃　：廣橋　岬陽

発行者　亀井神道流西日本吟詠会
事務局　那珂川市道善三六　渡邊昇陽方
印刷所　井上紙工印刷㈱